



先月の山行

- ☆ 7月28日(日) 白山チブリ尾根
- ☆ 8月11日(日) 唐松 五竜岳
- ☆ 25日(日) 平家平

9月の予定

- ☆ 8日(日) 毘沙門岳
- ★ 12日(木) 例会
- ☆ 22日(日) 空木岳～

CL 宮本重信 090-8260-8108 6時力ネキ運輸

10月の予定

- ★ 12日(木) 例会
- ☆ 13日(日) 経ヶ岳

CL

- ☆ 27日(日) 菅倉山

CL

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

を検索して下さい。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

[山行報告]

白山チブリ尾根

日時 2019年7月28日



梅雨明け最初の日曜日、台風の影響で曇り空だが白山、市の瀬登山口は人で溢れていた。5時福井発6時半登山開始、2キロ程舗装された道を歩き本格的な登山道に入る。途中の見晴らしのいい所で小休憩する、遠くに別当出合までのシャトルバスが何台も通っているのが見える沢山の方が白山山頂を目指すんでしょうネ。僕がこの会にお世話になり荒川さん(山遊会会長)に最初に連れてきてもらった事を思い出す。市の瀬登山口で身支度をして出発しようとしていたら警備員なのかバスの運転手のか「バス乗り場はこっち～」と叫んでいた。当時は今より皆おしとよしなのか、のんびりとしていますね。荒川さんが首を横に振る「乗らない！」とボクは山の下調べもしていなかった。さて何処に行くのか？そんな感じで付いていった事を・・・今の会員様はちゃんと山行計画書を調べて下さい。・・・そして山の稜線にでると黄色い花が咲いていて一緒に同行していた伴藤さんに花の名前を聞いたら「ニッコウキスゲだよ！」関東でもないのにニッコウキスゲ？と思ったかな・・・今みたいにSNS等スマホも一般的ではなかったので先輩達の経験と知識が全て、10年以上前の話なのでお許し下さい。今回は稜線に出るなり大雨に遭いお花畑を横目に避難小屋に急いだ9時30分着。12時半には下山した。山の雨模様天気が一変して、市の瀬登山口夏空が広がって

いた。

私達は先人達や自然界に知らず知らずのうちに
見えない恩恵を受けている、雨降り登山になり残念
でしたが昔を振り返った有難い登山になりました。

急な雨に私達のパーティーはバラバラになって
しまいました。避難小屋付近でメンバーは山の熟練
者ばかりで良かったのですが皆が知らない山だっ
たらとゾッとします。対策を考えましょうか・会
長殿

唐松岳(2696m) 五竜岳(2814m)

2019年8月11日12日



当初予定の7月から天候不順の延期で、三度目
の正直の山行に天気は上々、気分も上々。
八方第三駐車場から、 Gondolaとリフト2本を乗り
継いで、一気に1830mまで高度をかせぐ。連日の激
暑が嘘のように高原の風は心地よい。

木道が整備された遊歩道は、快晴の山の日とあっ
て、登山客、軽装の観光客、家族連れと人、人、人
であふれ、ありの行列のような数珠繋ぎだ。シモツ
ケソウやキンコウカを両脇に見ながら第二ケルン
まで来ると、ガスの切れ間から唐松岳に連なる不帰
の嶮、白馬三山が見え隠れする。青、緑、白、茶の
コントラストは得も言われぬ美しさだ。1時間程で
八方池到着。ガイドブックのグラビアのように水面
に白馬三山が映し出される。雲の流れで一瞬一瞬に
景色が変わり、ミストシャワーのような冷気が流れ
たりとつままでいても飽きない。絶景を心のアルバ
ムに収め、丸山ケルンに向かう。樹林帯を登り、は
はこくさやミヤマリンドウ、チングルマ、クマガイ
ソウ等々が咲き誇る天空のお花畑の中を進む。扇雪
溪で一休みするとその後は次第にコースがやせて
ガレ場や鎖場となる。岩ごつごつを過ぎるとガスの
中に唐松岳頂上山荘が左手に見えた。小屋に入る前

に唐松岳山頂に向かう。途中ライチョウの親子がす
ぐ近くまでやって来る。黒褐色に目の上が赤い雄、
一回り小さく茶褐色の雌。まだ小さくかわいい歩き
方の雛が何匹かいる。唐松岳下山後の山小屋前での
宴会中にも五竜岳への山道にライチョウの親子が
やってきた。日本に生息するライチョウは2000羽
を切ったそう。私達も当然のことながらごみの
持ち帰りや生息系に立ち入らないなど細心の注意
を払って山を楽しみ、動植物の保護に努め美しい自
然を次世代まで残していきたい。

翌日は4時半出発。すぐに難所の牛首にさしかか
る。ヘルメットをかぶり、鎖を手で細心の注意で一
歩一歩進む。起床から30分程度で体も足もまだ慣
れておらず足元がふらつく。

途中日が昇りはじめ左手側からは、雲海の中から
オレンジの太陽が顔を出し始め、遠く富士山やハケ
岳が雲海の中に浮かび上がる。右手側は晴天の中、
ひととき高く突き出る剣、奥には五竜岳がドンと構
えている。朝の稜線歩きは感動の連続だ。2日目は
長丁場となるがやはり唐松泊で正解だ。牛首を過ぎ
てもガレ場や鎖場の連続。高度感はあまりない為、
ゆっくり進めば特に危険というわけではないが一
瞬たりも気は抜けない。最低鞍部の手前で、先頭と
最後でかなり差がついたので、健脚組と五竜岳をシ
ョートカットするマイペース組に別れる。遠見尾根
を下山開始時に連絡を取り合うこととした。マイペ
ース組には、宮本会長がついてくれることになりと
ても心強い。マイペース組は、心理的にも時間的にも
余裕がでて花を眺め景色に見とれながら気持ちよ
く五竜岳山荘まで進めた。下から眺める五竜岳は下
半分は比較的なだらかで、後半は岩場で威風堂々と
素晴らしい。遠見尾根からの下山は、長いという覚
悟があったためか、さほど気にならず一気に降りれ
た。白馬五竜植物園でゆっくり高山植物を見ながら
Gondola乗り場でソフトクリームを食べて健脚組
と合流し帰路に着いた。



「編集後記」

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、登山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>

五竜岳 2814m



唐松岳山荘に9名宿泊、よく日早朝まだ夜明け前の4時半発、ご来光や雲海を見ての五竜岳への稜線歩きは心が洗われる気分、7時五竜岳山荘に到着する。4名はゆっくり休んで歩きたいとの事で一足先に遠見尾根から下山する。残りの5名が五竜岳山頂を目指す。すべてが岩場の急登です。リュックサックを山荘の隅に置き出発、身軽になったのか足取りは軽い、途中で外国人グループに出会う、短パン半袖の彼女達、大丈夫なのか言葉を交わしたいが語学力がない・・・かなりのハイペースで一緒に付いていく事に、風景を楽しむ事もなくあっという間に山頂へ、僕が彼女に「nice pace」と、ニコツトしながら彼氏の元へ当然ですネ。女性が導いてくれた登頂でした。あしハイギングの女性達にも期待しています♡。頂上からはメンバー全員で喜びのハイタッチ！山頂展望は360度すべてに素晴らしいものでした。

